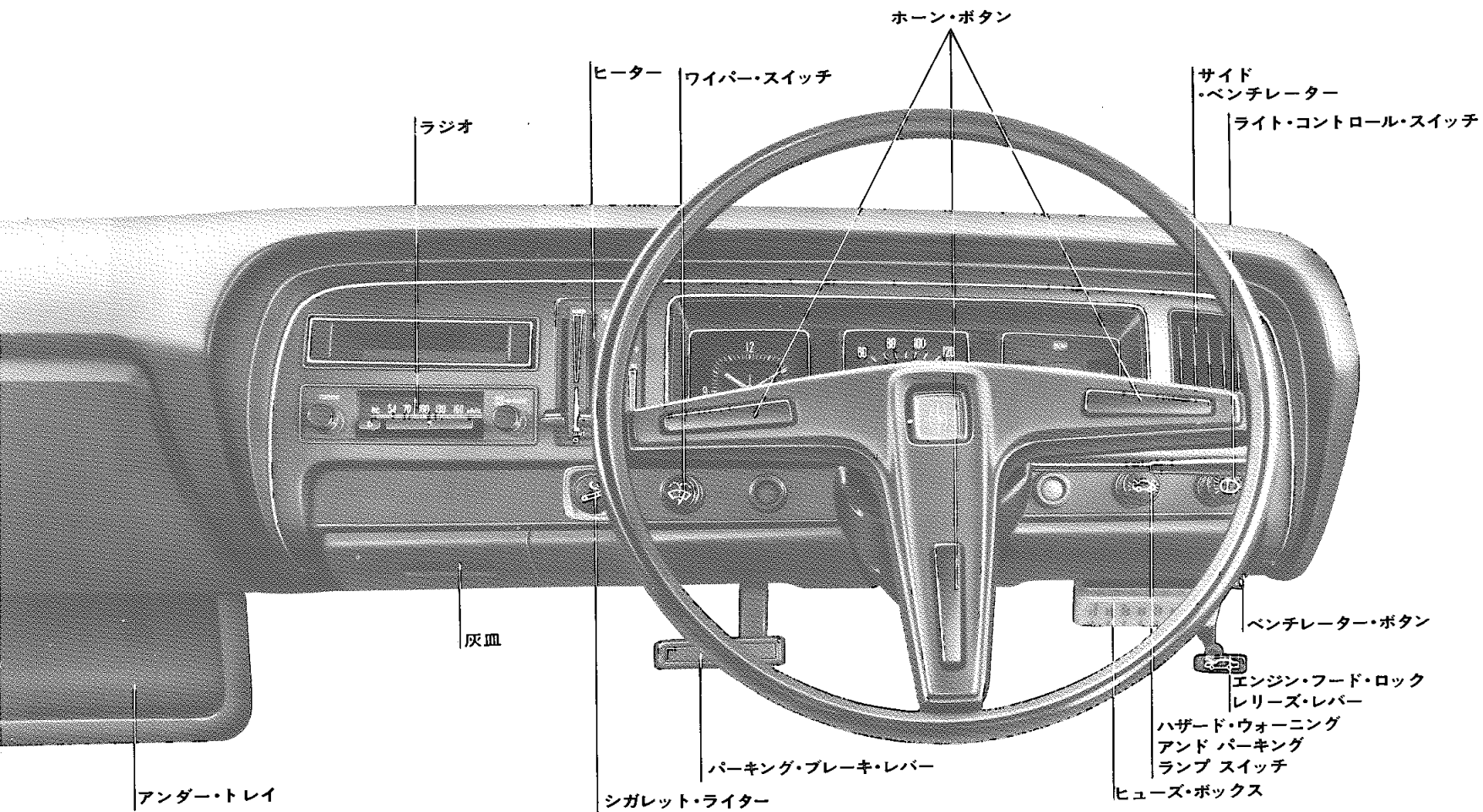




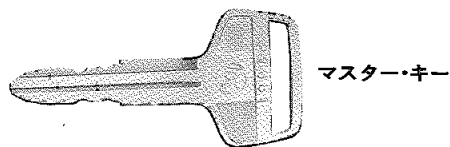
装備の知識について



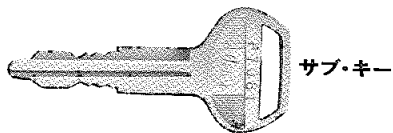
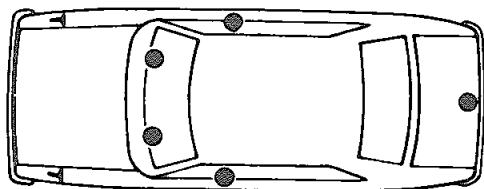


ご乗車の前に

■キーの確認をしましょう



(すべてのキーシリンダーに使用)



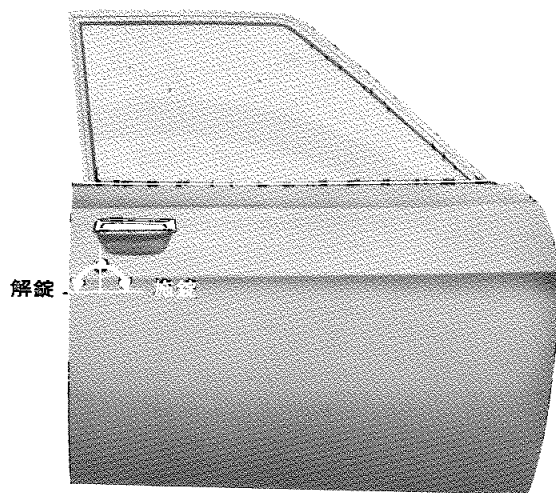
(トランクとグローブ・ボックス以外のキーシリンダーに使用)

キー・ナンバーをひかえておきましょう。

サブ・キーはトランクとかグローブ・ボックスに貴重品を入れたままキーをつけて車を預けるときなどにお使いください。

万一、キーを紛失されたときは、取扱店にご相談ください。

■ドアについて



ドアを開けるときは

外側から……

ドア・アウトサイド・ハンドルを持ち上げます。

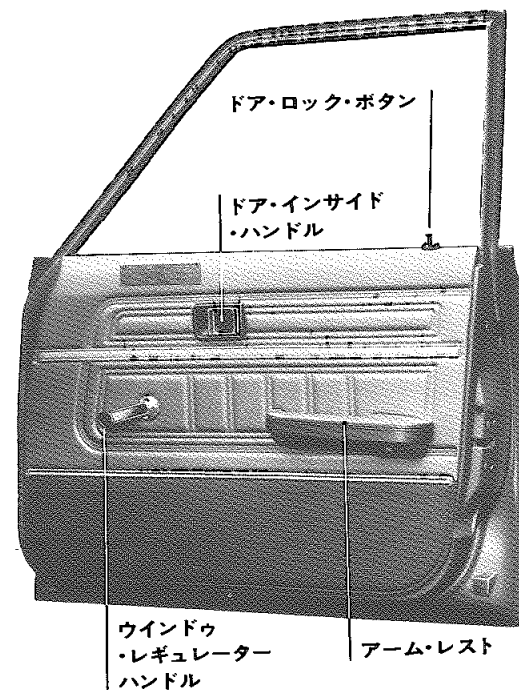
内側から……

ドア・インサイド・レバーを手前にひきます。

〈注意〉

必ず後方確認をしましょう。

いきなりあけると後続車にぶつかり危険です。



ドアを閉じるときは

シートにすわったらドアを確実にしめましょう。

〈注意〉

確実にしめてドア・ロックをしましょう。

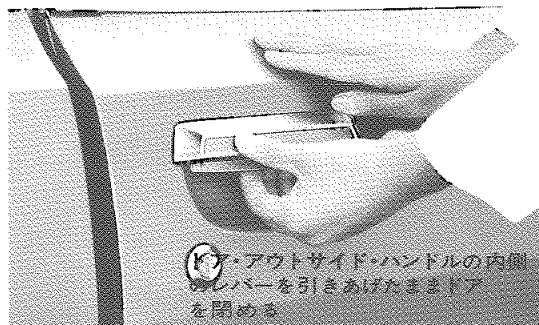
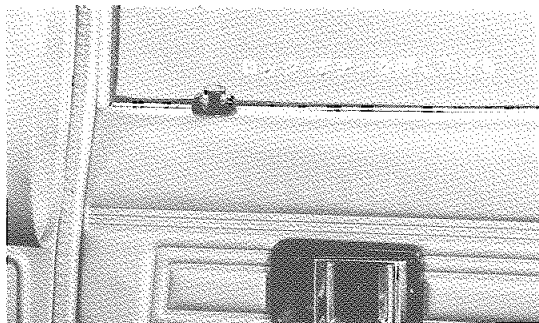
半ドアの状態では、運転中ドアの開く恐れがあり危険です。

ドアをロックするときは

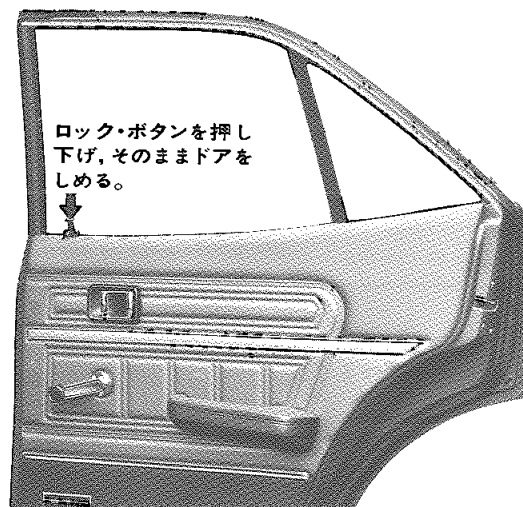
車外からキーを使用するとき <ドアの写真参照>

車外からキーを使用しないとき

〔フロント・ドア〕



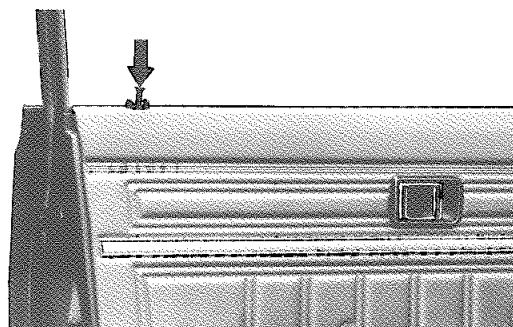
〔リヤ・ドア〕



この時、キーを車内に置き忘れないようご注意ください。

車内からロックするとき

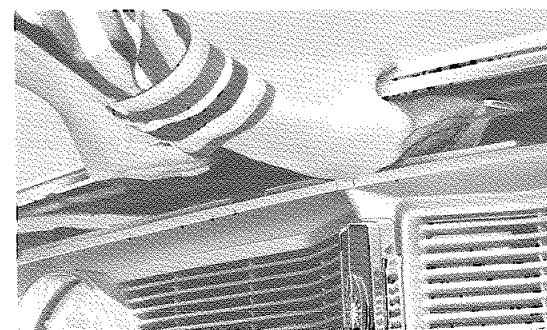
ドア・ロックボタンを押し下げます。



■エンジン・フードをあけるには



①インストルメント・パネル右下のノブをひき出します。



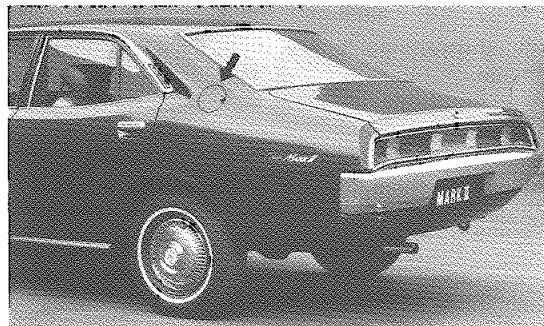
②エンジン・フード下のすき間に手を入れセフティ・ラッチを上げエンジン・フードをいっぱい開けます。

③閉じるときは、フードの前端を押えつけてロックします。

<注意>

フードが一段だけロックした半じまりの状態では走行しないでください。

■ガソリンを補給するには



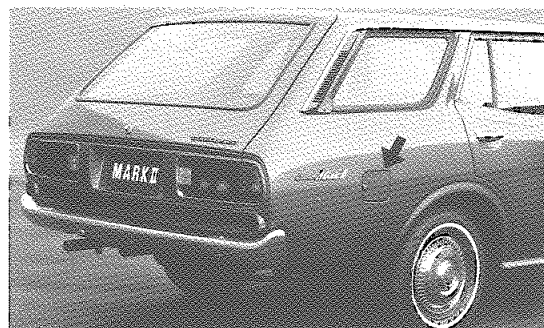
補給口は、

- { セダン車……左リヤ・フェンダー上部
- { ワゴン車……右リヤ・フェンダー部

キャップにはロックがついています。キーをOFFにしてから取り外します。

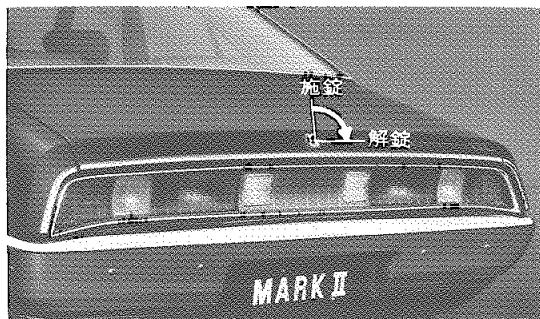
■使用ガソリン

エンジン型式	6 R	18 R	18R-B	18R-BR	M	M-B	M-BR
ガソリン使用	レギュラ	レギュラ	ハイオク	レギュラ	レギュラ	ハイオク	レギュラ



■トランクを開けるには

[セダン車]



閉じるときは、トランク・リッドをおろし、上から手で押えつけます。

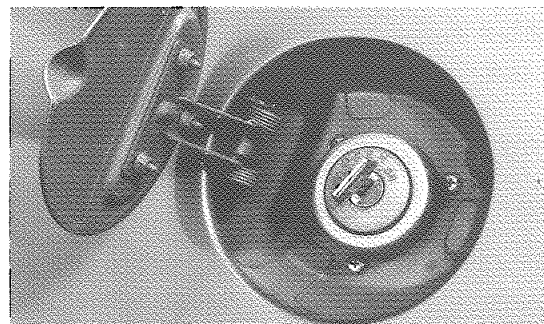
■バック・ドア〔ワゴン車〕



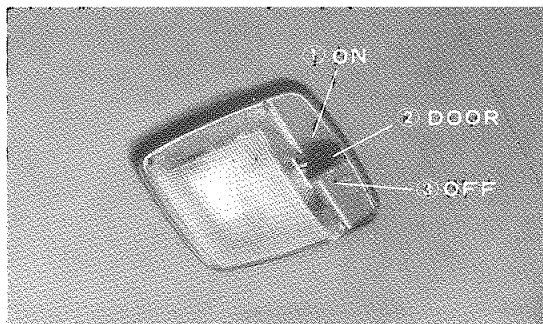
プッシュ・ボタンを押して、バック・ドアを持ち上げて開きます。

バック・ドアを開くとバック・ドア・ランプがつきます。

閉じるときは、上から手で押えつけます。



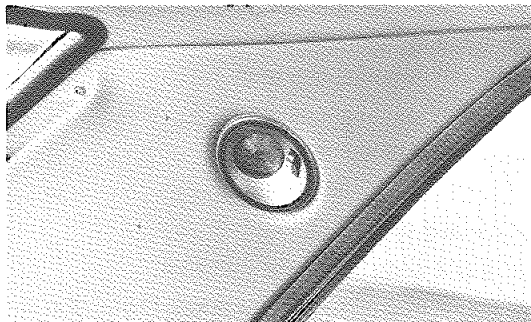
■ルーム・ランプとドアの関係は



ルーム・ランプ・スイッチは3段になっています。

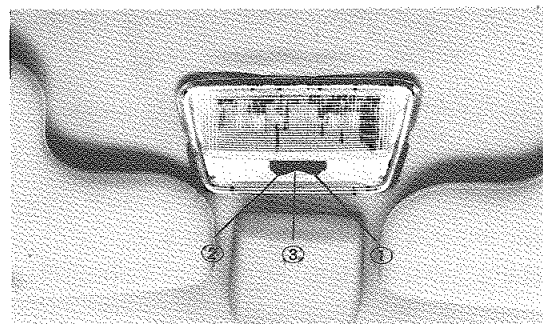
- ① **O N**………ドアの開閉に関係なく点灯
- ② **D O O R**………ドアを開いたときのみ点灯
- ③ **O F F**………ドアの開閉に関係なく消灯

■リヤ・ルーム・ランプ<L車のみ>



スイッチの下部を押すと点灯します。

<L車>



正しいドライビング ポジション

■シートの位置を調整しましょう。

フロント・シート



リクライニング・アジャスト・レバー

シート・アジャスト・レバー

前後位置調整

シート下のレバーを外側に押ししている間、前後に移動できます。

シート・リクライニング調整

シート横のレバーを引き上げると、シート・バックの角度が調整できます。

〔シートの位置調整は〕

車を運転する前に行なってください。

車が動いているときの調整は運転姿勢がくずれ危険です。

ペダルを十分に踏むことができ、ゆとりのある位置に調整しましょう。

リヤ・シート<ワゴン車>



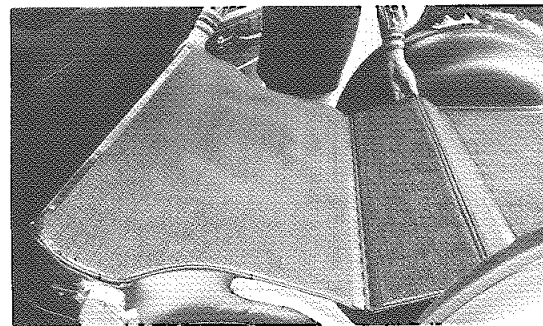
シート・バックは前に倒すことができます。

リヤ・ロック・レバーを前側にいっぱい引き、シート・バックを倒します。

シート・バックを前に倒したときは中央部のパネルを押しえつけて、シート・バックを固定します。

シート・バックを起こすときには中央部のパネル

を持ち上げて起こします。



シート・バックを後に押さえつけると自動的に固定されます。

■ヘッド・レストを正しい位置に



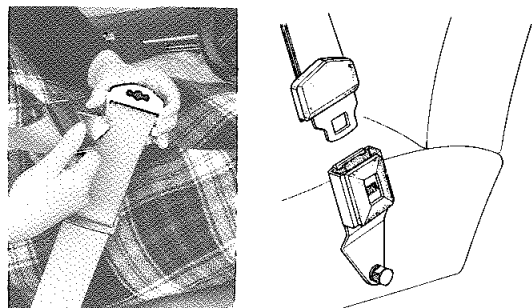
前に押さえるようにして上下させます。
通常は上の位置で使用します。

■セフティ・ベルトを忘れずに

フロント・シート用は標準装備、リヤ・シート用はオプションです。

装着方法

シートを運転しやすい位置に調節しセフティ・ベルトをいっぱい引き出し、またねじれていないことを確認します。

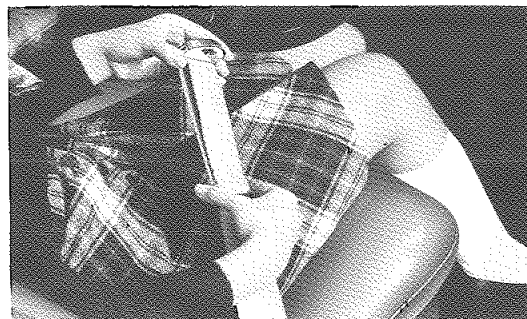


ベルト装着の正しい位置



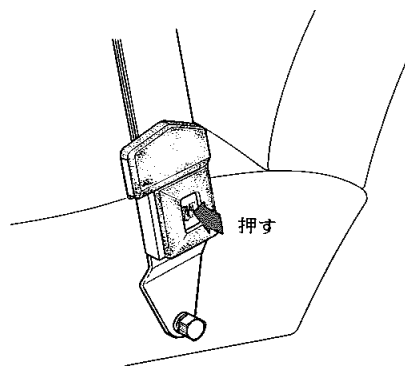
ベルトの調整

〔腰ベルト〕



肩ベルトも腰ベルトと同じ要領で調整してください。

取りはずし



腰ベルトは、バックルをドア側へ向けて一度引き手を離せば自動的に格納されます。

ベルトの格納



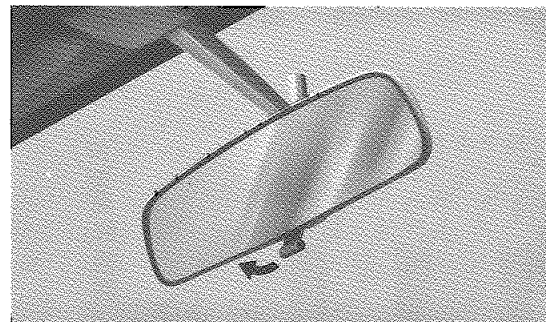
■ミラーの調整をしましょう。

リヤ・ビュー・インサイド・ミラー

リヤ・ビュー・アウトサイド・ミラー

後方視野が十分に確認できる位置に調整しましょう。

■防眩式リヤ・ビュー・インサイド・ミラー



夜間走行の場合、後続車のライトがインサイド・ミラーに写り、まぶしいときに使用します。

ミラーの下にあるレバーを手前にひくと後続車のライトの反射が弱くなり、後続車も確認でき、安全運転ができます。

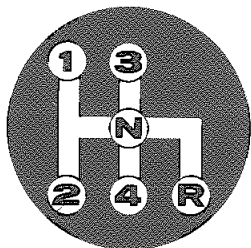
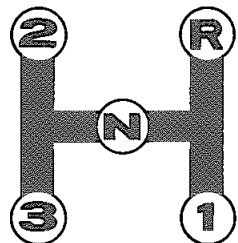
防眩が必要なくなったときは、レバーを押してもとの位置にします。

シフトレバーの 各レンジの確認

■マニュアル・トランスミッション

3段コラム・シフト

4段フロア・シフト

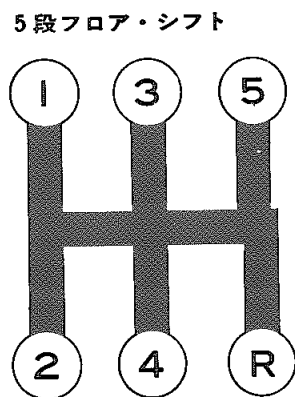


■トヨグライド・オートマチック

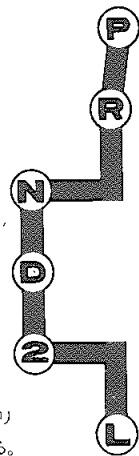
[各レンジへの入れ方]

コラム・シフトの場合

5段フロア・シフト



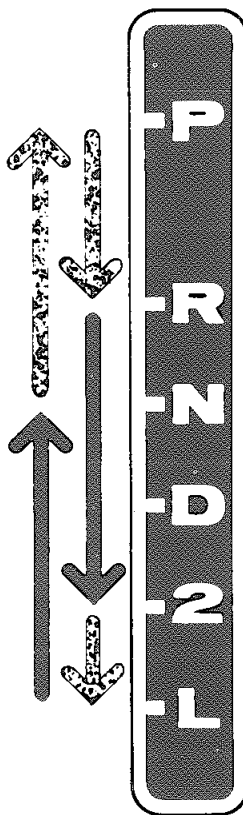
強く外側に寄せてリ
バースにシフトする。



フロア・シフトの場合

→そのまま動かします。

→ コントロール・レバー・ボタン
を押して動かします。



《各レンジのはたらき》

○トヨグライド・オートマチックの場合

パーキング・レンジ

駐車するときとエンジンを始動するとき
の位置

〈注意〉車が完全に止まってから入れてく
ださい。

バック・レンジ

車をバックさせるときの位置

〈注意〉車が完全に止まってから入れてく
ださい。

ニュートラル・レンジ

エンジンを始動する位置

ドライブ・レンジ

通常走行する位置

セカンド・レンジ

エンジン・ブレーキが必要なときの位置

ロー・レンジ

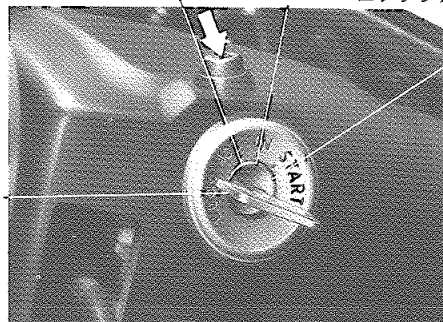
強いエンジン・ブレーキが必要なときの
位置

スイッチ、メーター類について

■エンジン・スイッチ

ACC……エンジンを止めたままラジオおよびカー・ステレオの聞ける位置
 〈注意〉ラジオおよびカー・ステレオをつけたまま長時間放置しないでください。

プッシュ・ボタン
 ON……エンジン運転中の位置



START……エンジンを始動する位置。
 手を離せば自動的にONにもどります。

LOCK……キーを抜き差しできる位置。キーを抜くとハンドルがロックされ盗難防止に役立ちます。

〈注意〉キーを抜く時はACCまでキーをまわし、ボタンを押しながらキーをLOCK位置までまわしてキーを引き抜きます。ボタンを押さないとキーはACCからLOCKにまわすことができません。

ロックがはずれないときはハンドルを左右にまわしながらエンジン・スイッチをACCの方向にまわすとはずれます。

【エンジン停止時スイッチは】

LOCKの位置にしておきましょう。

ONの位置で放置するとバッテリーあがりになります。

【スターター・モーターは】

長時間STARTの位置にしないようにしましょう。長時間作動するとバッテリーあがりになります。

【エンジンがかかっているときキーは】

STARTの位置にまわさないようにしましょう。STARTの位置にまわすとスターターが無理にかみあい破損します。

【車両から離れるときキーは】

LOCKの位置からキーを抜いてください。キーを抜くとハンドルがロックされ盗難防止に役立ちます。

- ・キーを抜くとステアリング・ロックが働き、ステアリング操作ができなくなりますので、走行中はキーを絶対にLOCK位置までまわさないでください。
- ・けん引される場合は、キーを一度ON位置までまわしてステアリング・ロックを解除し、その後ACCにもどしてください。

■チョーク オートマチック・チョーク

キャブレターにはオートマチック・チョークがついています。

①エンジンを始動する前にアクセル・ペダルを次のように踏みます。

+5℃以上	+5℃～-10℃	-10℃以下
軽く1回	いっぱい1～2回	いっぱい2～3回

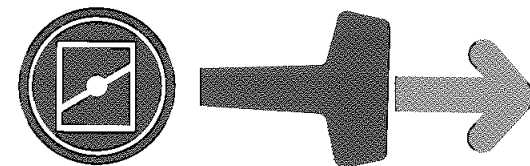
②アクセル・ペダルから足をはなしエンジンを始動します。

③しばらく暖機運転をします。

④エンジンが暖まってから再びアクセル・ペダルを踏みます。

（アクセル・ペダルを踏むと、自動チョークがもどりアイドル回転になります。）

チョーク・ボタン<SUキャブレター付車>



①チョーク・ボタンをいっぱいひきます。

②アクセル・ペダルを踏まないでエンジンをかけます。

- ③始動後エンジンの回転数が2,000回転程度になるようチョーク・ボタンをもどして十分暖機運転をしましょう。
- ④エンジンが暖たまるにしたがって、チョーク・ボタンを徐々にもとにもどしてください。

【エンジンが暖たまったら】

チョーク・ボタンは必ずもどしましょう。

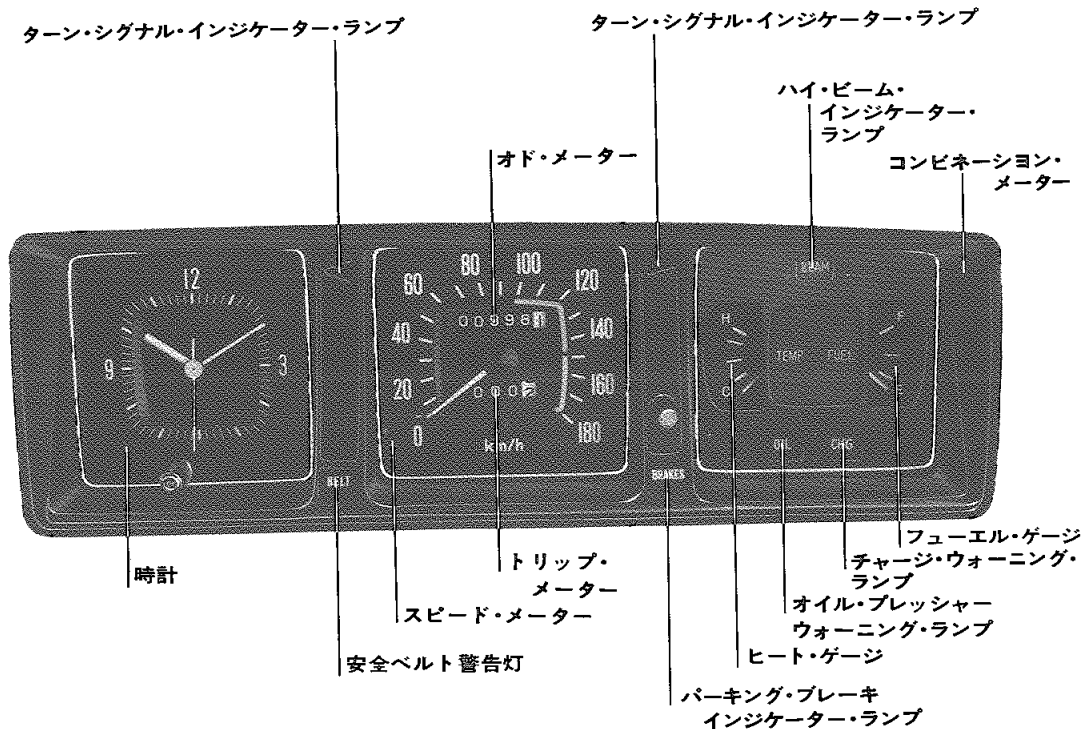
チョーク・ボタンをひいたままにしておくと、エンジンが不調になり、燃料消費を多くします。

＜注意＞

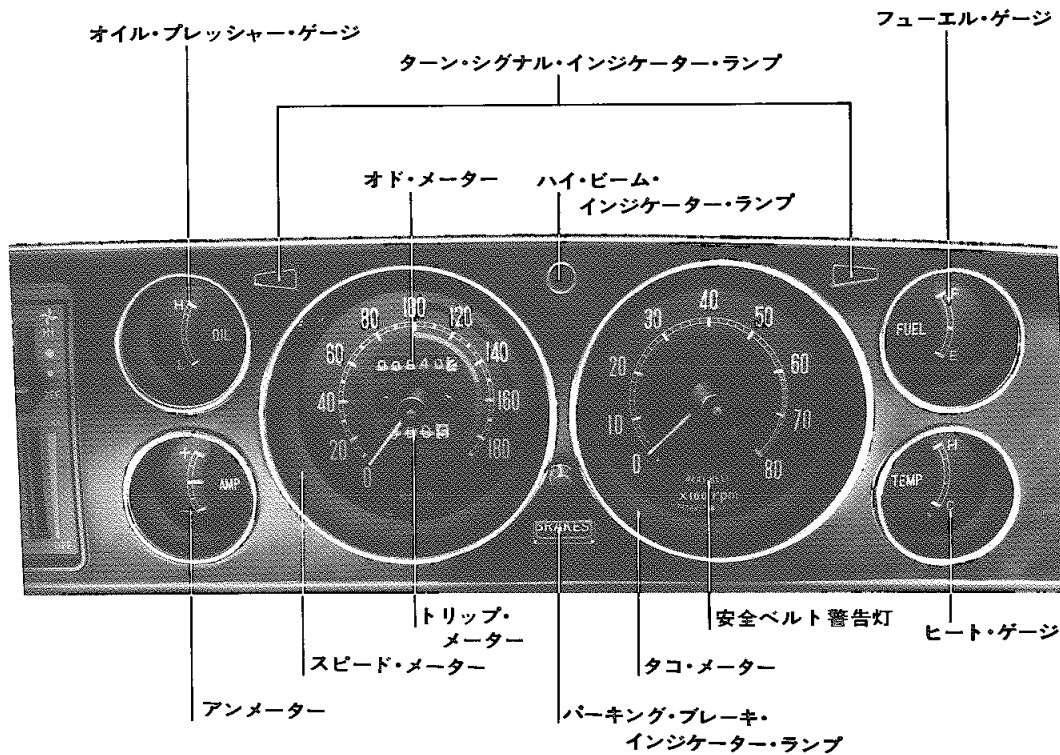
E F I 車の寒冷時始動は、いったんエンジン・スイッチをONの位置にし、約1秒後にスターターを回しますと、始動時間が短く容易になります。

メーター類

＜デラックス車, GL車＞



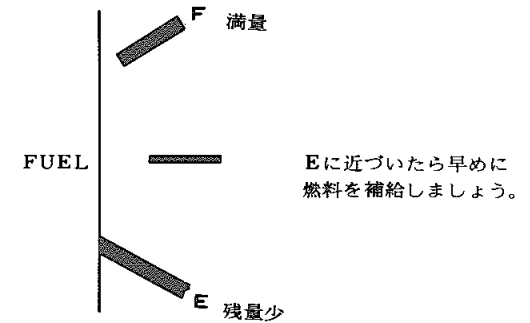
<G S L車, L車>



■ フューエル・ゲージ

エンジン・スイッチがONのときは燃料の残量を示します。

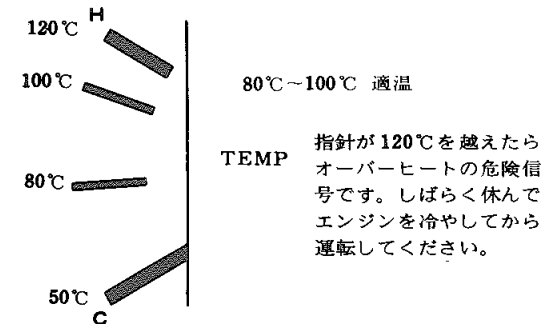
スイッチがその他の位置のときは、指針はEより下の位置にあります。



■ ヒート・ゲージ

エンジン・スイッチがONのときに冷却水温を示します。

スイッチがその他の位置のときは、指針はCより下の位置にあります。



■チャージ・ウォーニング・ランプ

エンジン運転中、充電系統に異常がある時に点灯する警告ランプです。

正常の時は、エンジン・スイッチをONにすると点灯しますが、エンジンを始動すると消灯します。

■オイル・プレッシャー・ウォーニング・ランプ
エンジン運転中、潤滑系統に異常がある時に点灯する警告ランプです。

エンジン・スイッチをONにすると点灯しますが、エンジンを始動すると消灯します。

点灯したままのときはオイル量を調べましょう。それでも点灯しているときはサービス工場へ

■パーキング・ブレーキ・インジケータ・ランプ
エンジン・スイッチがONのときパーキング・ブレーキ・レバーを引くとパーキング・ブレーキ・インジケータ・ランプが点灯します。

そのままの状態、フット・ブレーキ・ペダルを踏むとブレーキ配管系統に異常がなければ、パーキング・ブレーキ・インジケータ・ランプは消灯します。

もし、消灯しない場合は異常が考えられますのでただちにサービス工場にご連絡ください。

■ハイ・ビーム・インジケータ・ランプ

ヘッドランプ・ホーン・インジケータ・ランプ
ヘッドランプがハイ・ビームのとき、ハイ・ビーム・インジケータ・ランプが点灯します。

■ターン・シグナル・インジケータ・ランプ
右折または左折のとき、それぞれのターン・シグナル・インジケータ・ランプが点灯します。

■安全ベルト警告灯

パーキング・ブレーキ・レバーを引いた状態で、点灯し、セフティ・ベルトを装着すると消灯します。

■オド・メーター

今までに走行した総距離をkmの単位で表わします。白地に黒文字は、100mの単位です。

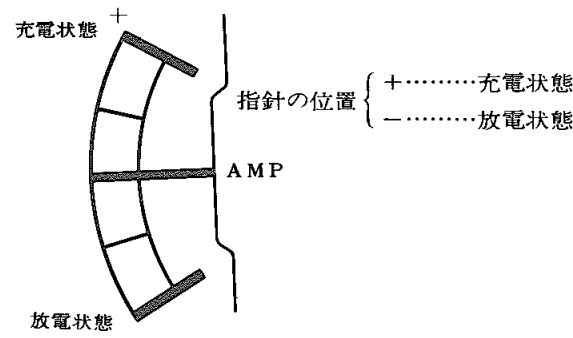
■トリップ・メーター

ノブをまわして0にもどすことができます。一定区間の走行距離を知りたいとき0にまわして使用します。

■タコ・メーター<G S L車, L車>

1分間のエンジン回転数を示します。目盛の65(L車は60)以上には、赤色が塗ってありレッド・ゾーンといいます。これは指針がこの範囲内にあるときは、エンジンがオーバーランをしていることを示しますので、指針がレッド・ゾーンにはいらないようご注意ください。

■アン・メーター<G S L車, L車>

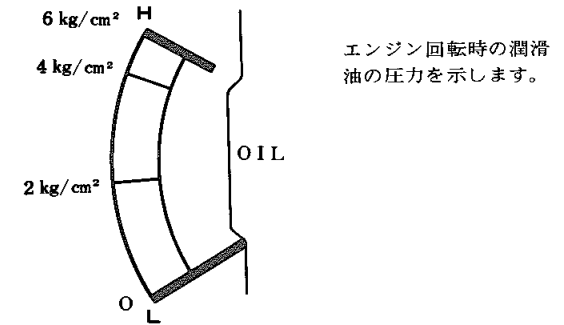


昼間の場合はエンジン始動直後、+側に約半ほど

振れますが走行を続けるうちに徐々にもどり、わずかに+側を指示する状態で静止すれば良好です。エンジン始動後も一側を指示するときは、ヘッドランプ等以外、フォグ・ランプなどの電気の使用が過ぎか、発電システムの故障と考えられます。ヘッドランプ、フォグ・ランプなどの電気負荷を消してもなお一側を指示するときはサービス工場での点検をうけてください。

■オイル・プレッシャー・ゲージ

<G S L車, L車>

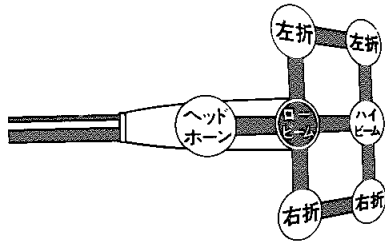


走行中のエンジン回転数に応じて1~6 kg/cm²の範囲内で作動すれば正常です。

エンジン回転数を上げて1 kg/cm²以上を指示しないときは潤滑系統に異常がありますので、エンジンをただちに止めて、オイル量を点検してください。

もしオイル量が正規であれば、他のところに故障がありますので、ただちにサービス工場での点検をうけてください。

■ターン・シグナル・レバー



ターン・シグナル・スイッチとして……

レバーを上にするると「左折」、下にするると「右折」のターン・シグナル・ランプが点滅します。ハンドルをもとにもどすとレバーは自動的にもどります。

〈注意〉

ハンドル操作が少ないときスイッチが自動的にもどらない場合があります。このときは手でもどしてください。

ヘッドランプ・ホーン・スイッチとして……

ヘッドランプのハイ・ビームが点滅します。高速道路などで先行車を追い越すときの合図として使います。

ヘッドランプ切り換えスイッチとして……

夜間先行車、対向車のないときのみハイ・ビームにしてください。

〔夜間対向車または先行車のある場合〕

必ずロー・ビームにして走りましょう。

まぶしくて迷惑をかけます。

■スピード・メーター

指針は、車の走っている速度を示し約100km/h以上になると、チャイムが鳴り警告します。チャイムが鳴っているとき、指針が振れることがありますが、異常ではありません。

■残光式ヘッドランプ〈L車のみ〉

ヘッドランプを消したあと、ドアをあけてから、ターン・シグナル・レバーをヘッドランプ・ホーン的位置にすると、ヘッドランプが約20秒間点灯して消えます。

夜間の車庫入れ後の足もとの照明などにご使用ください。

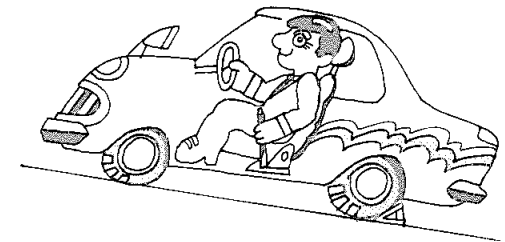
残光式ヘッドランプの操作をした後、すぐ消灯したい場合は、ライトコントロール・スイッチを引き出して、また、すぐ押しこめばヘッドランプは消灯します。

■パーキング・ブレーキ・レバー



駐車時、いっぱいひっぱって使用します。もどす場合は下に60°まわします。

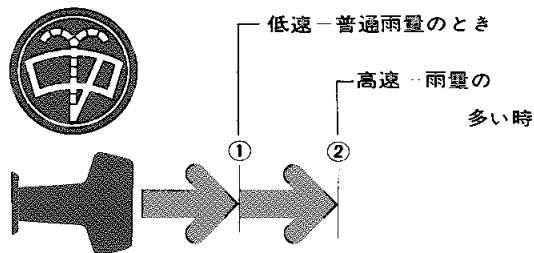
坂路での駐車はパーキング・ブレーキを引いた上、輪止めを確実にしてください。



■ワイパー&ウォッシャー・スイッチ

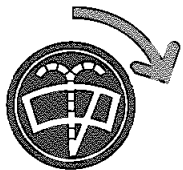
エンジン・スイッチがONのときに使えます。

ワイパー・スイッチ



スイッチを切ると、ワイパーは動き始めの位置まで来て止まります。

ウォッシャー・スイッチ



ウインドウ・ウォッシャーはワイパーと連動式になっています。スイッチを右に回すとウォッシャー液が噴射され、同時にワイパーが数回作動し止まります。

フロント・ウインドウ・ガラスがよごれているときに使用します。

【ワイパーを使用する前に】

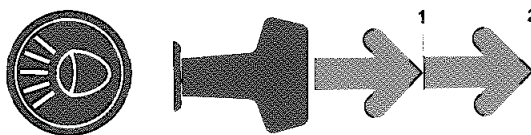
汚れたままワイパーを作動するとガラスに傷が付きま

【ウインドウ・ウォッシャー液がからのときは】

スイッチを回さないようにしましょう。

回すとモーターをいためる恐れがあります。

■ライト・コントロール・スイッチ



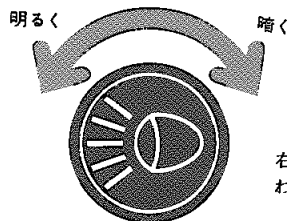
エンジン・スイッチに関係なくランプがつきます。

①および②の位置でそれぞれ次の○印のランプが点灯します。

灯 火 名	①	②
ヘッドランプ		○
スモール・ランプ, テール・ランプ	○	○
ナンバー・プレート・ランプ	○	○
メーター・パイロット・ランプ	○	○

メーター・パイロット・ランプの明るさ調整

<GL車以上>



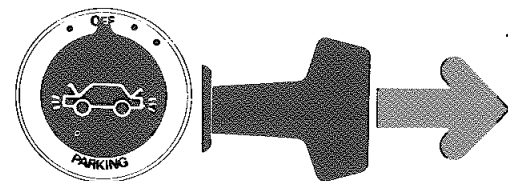
右にいっぱいまわすと消える。

ライト・コントロール・スイッチを左右にまわすと、メーター・パイロット・ランプの明るさがかわります。

周囲の明るさに応じて調整してください。

■ハザード・ウォーニング&パーキング・スイッチ

ハザード・ウォーニング・スイッチとして



車が故障して緊急路上駐車するとき他車の追突防止のため使用します。

この時、コンビネーション・メーター内のターン・シグナル・インジケーター・ランプ(緑色)が左右とも同時に点滅します。

【ハザード・ウォーニング・スイッチは】

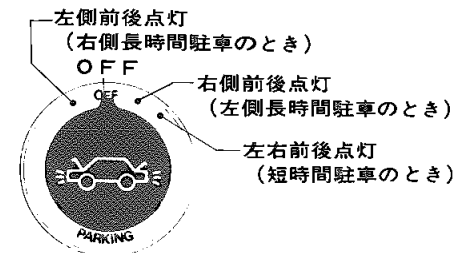
非常の場合以外は使わないようにしましょう。

走行中、トンネル内などで使用すると他車の誤解をまねき危険です。

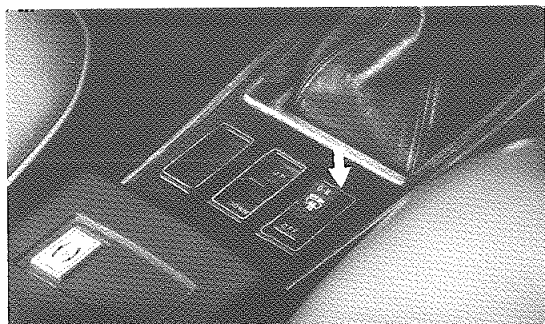
パーキング・スイッチとして

夜間路上駐車時使用します。

パーキング・ランプが点灯します。



■リヤ・ウインドウ・ディフォガ・スイッチ
 <GL車以上>



リヤ・ウインドウが曇ったとき、ガラスの表面を暖めて、曇りをとることができます。

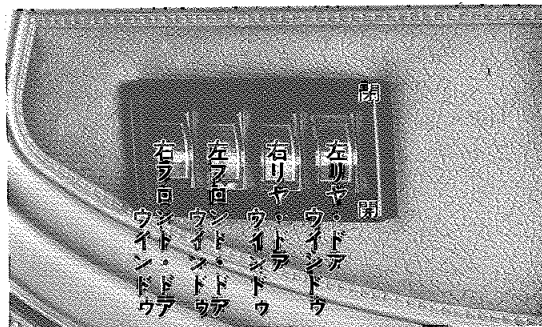
スイッチをONにすると、スイッチ内部の照明ランプが点灯し、作動していることを示します。

<注意>

ディフォガは使用電力が大きいので、リヤ・ウインドウの曇りが消えたらスイッチを切ってください。室内の曇りを取るもので、雨水・雪を乾燥させる能力はありませんので必要以上に使用しないでください。

スイッチを入れっぱなしにしておくと、バッテリー上がりの原因になりますので、ご注意ください。

■パワー・ウインドウ・スイッチ
 <GL車以上オプション>



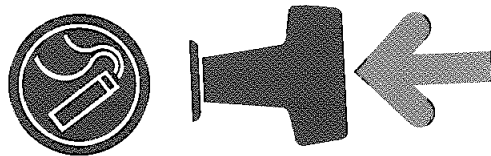
ドア・ウインドウ・ガラスはすべてスイッチで開閉できます。

また、運転席には、全ドアのウインドウ・ガラスがリモート・コントロールできるマスター・スイッチが取り付けられています。

<注意>

ウインドウの開閉は、エンジン・スイッチがONの場合にしかできません。

■シガレット・ライター



シガレット・ライターは、押しこんだらすぐ手を離してとび出すのを待ちましょう。

<注意>

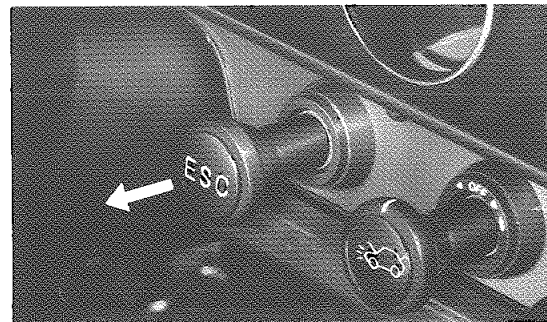
押しつけたまましていると、シガレット・ライターをいためます。

■ESC (電子制御式スキッド防止装置)

<GSL以上

L (5段ミッションを除く)車オプション仕様

運転のしかた



<走行前のチェック>

1. エンジン・スイッチをSTARTの位置にするとスターターが回転し、同時に赤色のパーキング・ブレーキ・インジケーター・ランプが点灯します。点灯しなければ電球が切れていますのでサービス工場へ連絡してください。また電球切れはブレーキペダルを踏まずパーキング・ブレーキのみ引いた場合にも点灯するのでチェックできます。
2. エンジンをかけてからブレーキペダルを踏みチェック・スイッチを引っぱると、スイッチノブに埋込まれた緑色のオペレーション・ランプが点滅しエンジン・ルームから作動音が聞こえます。緑色ランプが点滅しない場合はESCに故障が生じていますのでサービス工場へ連絡してください。

3. 以上のチェックをして異常がなければ走行してください。ブレーキを踏めばESCは自動的に作動します。作動時にはオペレーションランプが点滅します。

＜走行中のチェック＞

1. 走行中、赤色のパーキング・ブレーキ・インジケータ・ランプが点灯した場合はESCに故障が生じていますのでサービス工場へ連絡してください。

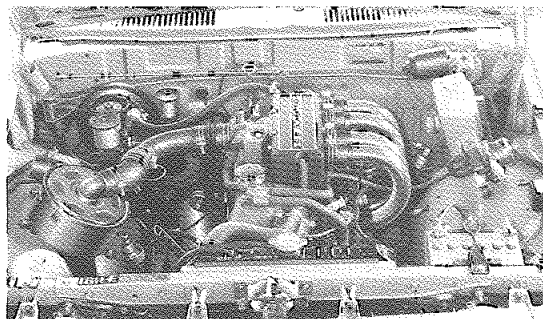
＜注意＞

万一、ESCが走行中故障した場合には、普通のブレーキ機構に戻ります。

■EFI（電子制御式燃料噴射装置）

＜GSL系EFI仕様車＞

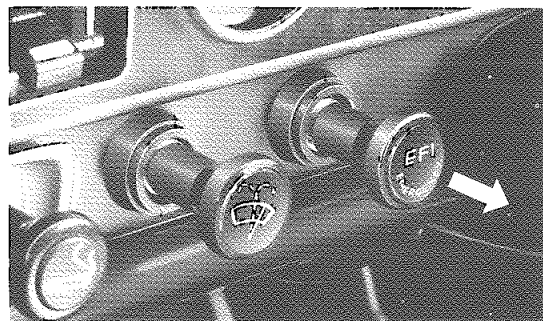
一般の車両と同じ取り扱いで結構ですが下記の点にご注意ください。



寒冷時始動について

エンジン・スイッチをいったんONの位置にし約1秒後にスターターを回しますと、始動時間が短かくて容易になります。

緊急時には



万一エンストや事故などで、エンジンが停止した時、エンジン・スイッチがONの状態でも、燃料ポンプの働きを約2秒後に止めます。

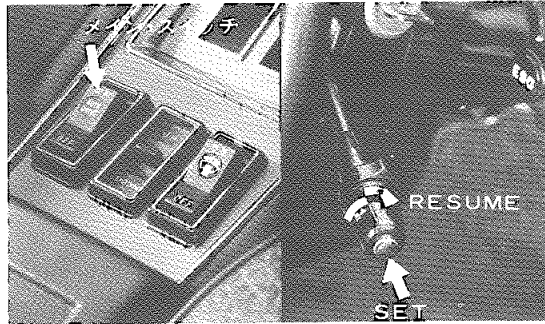
この場合スイッチを手前に引けば、燃料ポンプは前と同じように働きます。

“押しがけ”の時に利用してください。

＜注意＞

スターター・モーターを回して始動するときは引く必要はありません。

■オート・ドライブ<GL車以上オプション>



オート・ドライブとは車速が一定に保たれる装置で、車速が60km/h～120km/hでセットできます。50km/h以下になると自動的に、オート・ドライブは解除されます。

希望速度にセットする時

最初に、コンソール・ボックス上のメイン・スイッチをONにし、希望の車速になったらターン・シグナル・レバーの先端のセット・ボタンを押してアクセル・ペダルを離してください。

セット・ボタンを離れた時の速度にセットされます。

オート・ドライブを解除する時、または解除される時

(1)ブレーキ・ペダルを踏んだ時

(2)クラッチ・ペダルを踏んだ時

<マニュアル トランス ミッション車>

(3)シフト・レバーをNにした時

<トヨグライド車>

(4)パーキングブレーキを引いたとき

(5)メイン・スイッチをOFFにした時

車速変更する時

(1)微増速の場合

セット・ボタンを押してすぐ離すと、もとの車速から+5km/hの範囲内で増速することができます。

(2)微減速の場合

セット・ボタンを押しつづけると、減速されますので、希望の車速になったら、セット・ボタンを離してください。

(3)増速の場合

そのままの状態ではアクセルを踏み、希望の車速になったら、セット・ボタンを押してください。

解除前の設定速度に戻したい時

オート・ドライブ作用時、ブレーキ又はクラッチを作動させてオート・ドライブを解除した後、再びもとの車速にもどしたい時は、車速が60～120km/hの範囲にあるときだけレバーをRESUMEの方向へ回してください。

<注意>

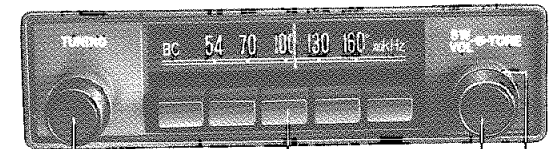
アクセルをいっぱい踏んだ瞬間には、メイン・スイッチをONにしないでください。

運転を楽しく、快適に

■ラジオ

ラジオは、エンジン・スイッチがONかACCのときに聞くことができます。

プッシュ・ボタン式<デラックス車>



選局ダイヤル

選局ボタン

スイッチと
ボリューム

音質調整ダイヤル

[スイッチとアンテナ]

ラジオのスイッチを押すと、電源が入り同時にアンテナが1段とび出します。

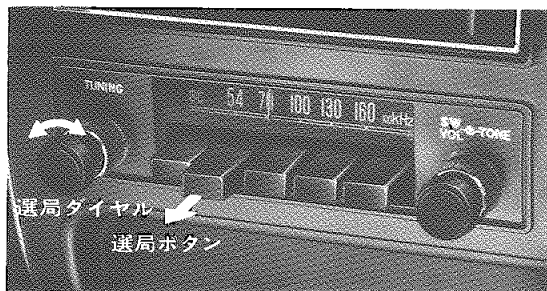
もう一度スイッチを押すと電源は切れますが、アンテナは下がりません。

アンテナは、手で長くいっぱい引っ張り出せますが、普通なら1段目で十分です。

<注意>

いっぱい押し込むとロックされ、再びラジオのスイッチをONにしないと飛び出しません。

[選局ボタンのセットのしかた]

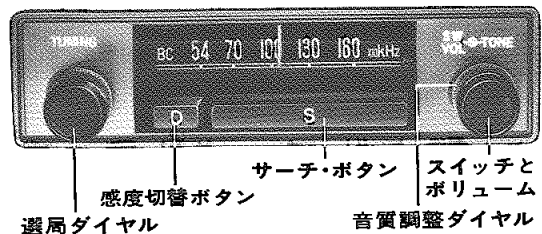


1. ボタンの一つをいっぱい引き出す。
2. 左側選局ツマミで針を望みの局に合わせる。
3. 引き出したボタンをいっぱい押しこむ。

<注意>

放送局の違う地域へ行ったら選局しなおしてください。

AMサーチ・チューナ式<GL車・GSL車>



[選局のしかた]

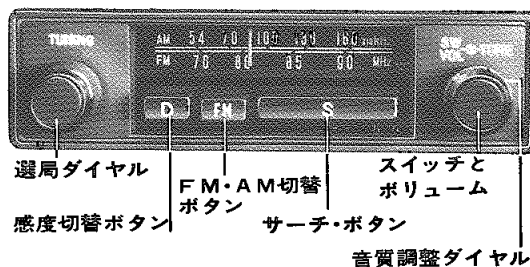
サーチ・ボタンを押すと、指針が自動的に移動し次に開ける局で止まります。

[感度の切替]

山間部などの電波の弱い地域や、遠くの放送電波をキャッチしたいときに、感度切替ボタンを押し込んでください。

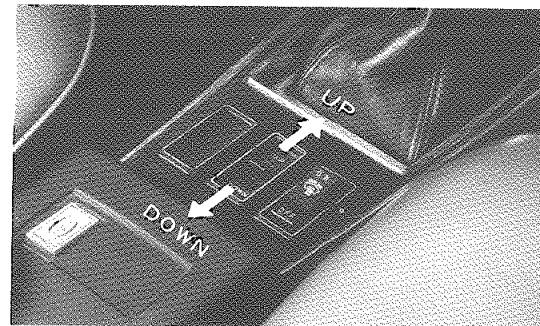
もう一度ボタンを押すともとの位置にもどり、近距離の局のみ選局できます。

AM・FMサーチ・チューナー式<L車>



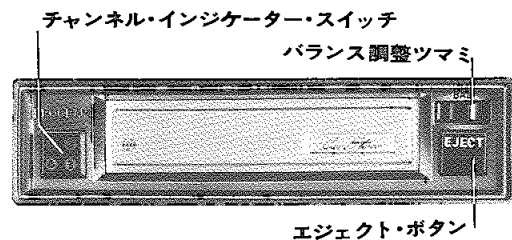
FMボタンを押し込むとFM放送が受信できます。FMボタンをさらに押しすとボタンの位置がもとにもどりAM放送受信状態となります。

[スイッチとアンテナ]



スイッチの前側を押すとアンテナは自動的に上がります。後側を押すとアンテナは下がります。

■カー・ステレオ<オプション>



[演奏停止]

EJECT ボタンを押すとテープが自動的にとび出し演奏はとまり、電源も切れます。

<注意>

カートリッジ・テープの保存はテープが露出しないようにケースに入れ直射日光をさけて保存してください。

[演奏開始]

エンジン・スイッチがONまたはACCのとき使用できます。

カートリッジ・テープをテープ差しこみ口にまっすぐ差しこみます。

自動的にチャンネル・インジケータ・ランプがつき演奏が始まります。

[バランス調整]

音が左右に移動します。

もっとも、ステレオ感のもりあがる位置にこのツマミを調整してください。

[音量調整]

ラジオの音量調整ツマミを左右にまわして適当な音量に調整してください。

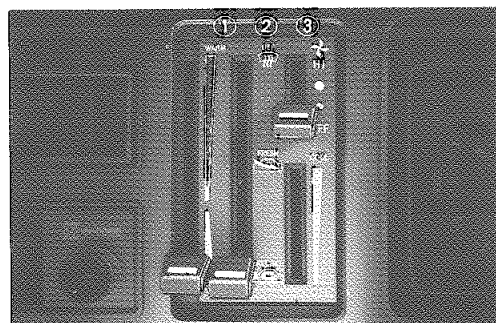
[音質調整]

ラジオの音質調整ツマミを左右にまわして好みの音質に調整してください。

[チャンネル切換]

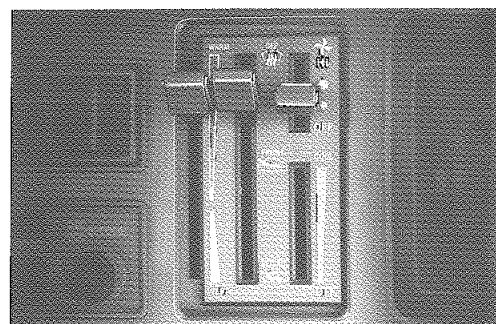
演奏中、スイッチを押すと他のチャンネルに切換えることができます。

■ヒーター

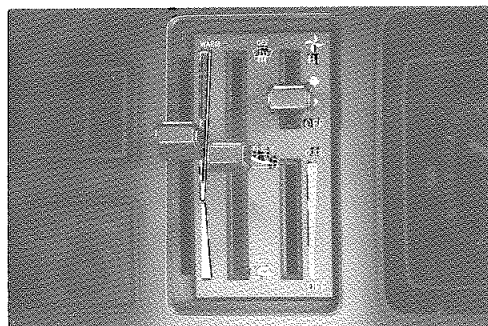


① 温度調整レバー	② 内外切替レバー	③ ファン・スイッチ
WARM 室内暖房	DEF ガラス曇りどめ	HI 強い風
	FRESH 外気導入	● 中間
VENT 室内循環	RECIRC 内気循環	・ 弱い風
		OFF 停止

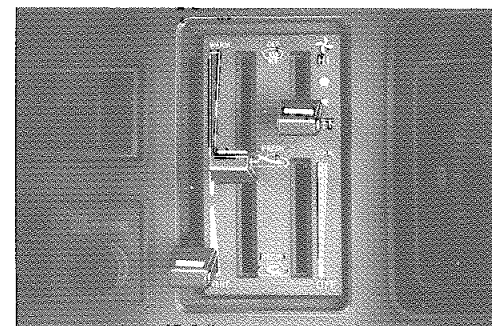
ガラスの曇りどめの操作



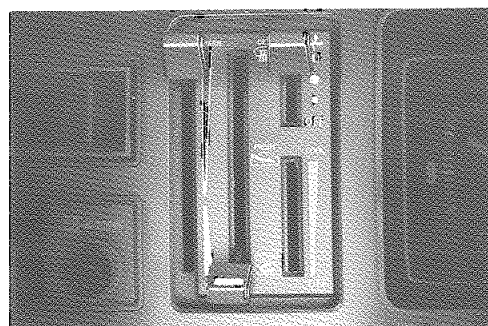
車内をゆっくり暖める操作



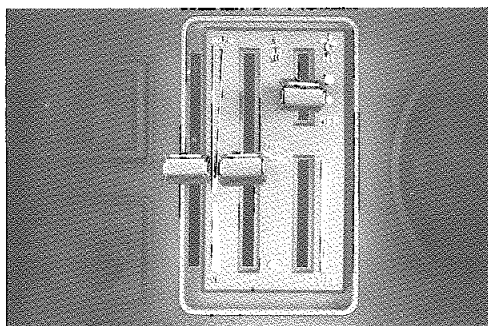
ファン停止でも新鮮な空気が導入できる操作



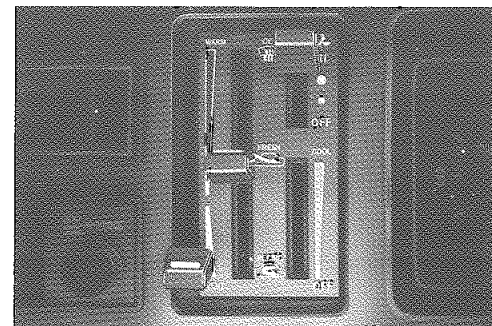
車内を早く暖める操作



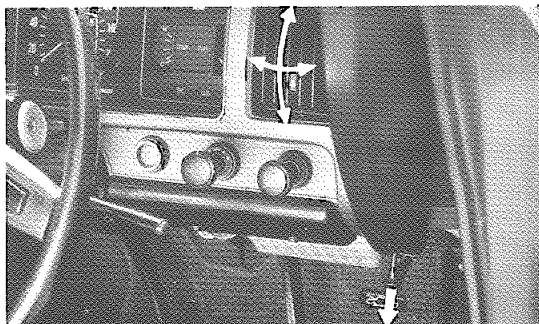
車内を暖めながら換気する操作



強制ベンチレーション<夏期のベンチレーション



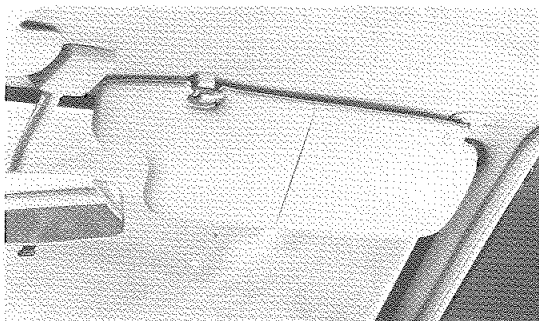
■ベンチレーター



車内の空気を入れかえたいときノブを引いて使用します。

ベンチレーターから新鮮な空気が流れます。また、中央部のルーバーを動かすことにより風向きの調節もできます。

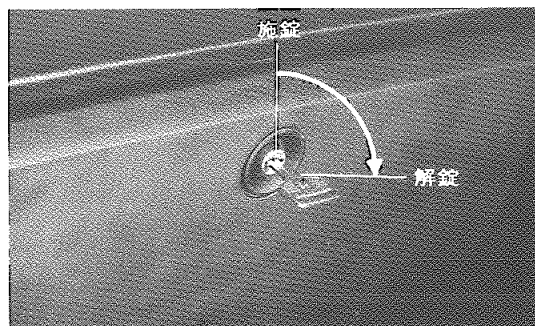
■サン・バイザー



中央部のロックをはずすと、横にまわすことができます。

グローブボックスについて

■グローブ・ボックスを使うときは



キーで解錠してボタンを押します。

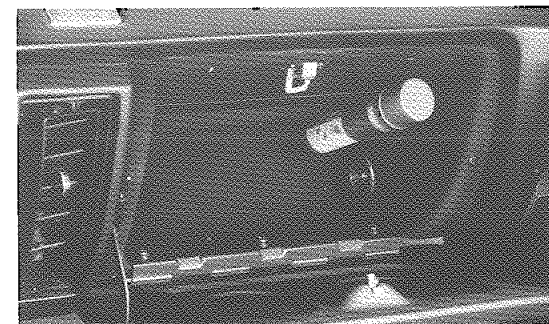
また、ライト・コントロール・スイッチがONのときにふたをひらくとボックス内右横のマップ・ランプがつきます。

<注意>

グローブ・ボックスの施錠、解錠はマスター・キーで行ないます。

保安炎筒について

■保安炎筒を使うときは



非常事態が発生したときに使用します。使用法は保安炎筒に書いてある説明をよく読んで万々に備えてください。

保安炎筒には有効期限があります。本体底部に明示されていますので確認しておきましょう。発炎時間は5分間です。

<注意>

非常信号用としてのみ、ご使用ください。使用中、筒の先を顔や体に向けたり、近づけたりすると火傷の危険があります。取り扱いには十分注意してください。